

# 江戸前アユだより

編集・発行  
佐藤正康

7月下旬のこと、川の中でまだ広がっている投網に絡んでいるアユを網ごと掴んで、ビク持ちで手伝えてくれていた小学生に「いい匂いするよ」と言って匂いをかがせると、何も知らないはずの小学二年生から「フルーツみたいな匂い！」というリアクションが返ってきた。新座の黒目川でのことである。筆者は、高麗川へアユとりに行ったときに、「香水並みに強烈な匂いだな」と感じたことがある。これはその時の主観でしかないし、どんな匂いが好きかは個人の好みでもあるだろうが、「きれいな川のアユは良い香りがする」といわれる。アユが香魚とも呼ばれる所以である。

こういうのは何かきっかけがあると他の川のアユはどうか確認したくなる。さほどきれいではない都市河川のアユはどんな匂いがするのか。捕っているときに匂いをかいでみるくらいの余裕があってもいいかなとも思う。



黒目川のアユを投網で掛けたときに、「最近雨で川がきれいになったし、どんなもんか」と匂いをかいでみると結構いい匂いがする。じゃあ、黒目川よりもっと水が透明な清瀬の柳瀬川ならきっといい匂いがするだろうとかいでみたところ、そうでもなかった。というか、かろうじてアユの匂いだなとわかる程度というか、あまりいい匂いではなかった。清瀬の柳瀬川の方が水は透明なはずなのに、新座の黒目川の方がアユは良い匂いがする・・・？



次の週、盆踊りで展示する魚を捕っていたときにたまたま居合わせた小学生にビク持ちで手伝ってもらっていて、このアユはやっぱり結構良い匂いするなと思って匂いをかがせてみたところ冒頭の反応があった。確かに川は大分きれいになってきて、こどもたちは夏になると普通に泳いで遊んでいる。おそらくこれが恵まれた環境なんだということに地元の間人は気づくことがない。アユが良い匂いする川なんてそうそうない。そんな視点で改めて他の川も観察してみた。

断っておくと、こどもは川が汚くても、「くさい！」とか叫びながら結構泳いで遊んでいる。なので、ここはアユが良い匂いがするかどうかのみで川比べしてみようと思う。

新座の黒目川、8月上旬イベントの時に前回と同じ場所に入ってアユの匂いをかいでみた。同じ場所なのにこの日はあまり良い匂いがしない。この日は、参加者の小学生から「お茶の匂いがする」という感想があった。アユによってはお茶の出し殻のような匂いもする。濁った水の川で捕れるアユはこの匂いのイメージがある。今年は高麗川に行ったのが雨の後だったが、増水後にはあまり良い匂いがしなくなるという話も聞いた。

今回、アユの匂いを確認してみたのは高麗川、入間川、綾瀬川、柳瀬川、黒目川、越戸川、多摩川のアユ。その時々で状況で必ずしも良い匂いがするというわけではないらしい。同じ川、同じ場所でもアユによって匂いが違ったりもする。きれいな川のアユが良い香りというのは間違いないが、それでも水やコケの状態は常に変化している。良い香りがするアユに出合えたら「ラッキー」と思っているのかもしれない。

9月後半になると産卵期が近づいて錆びてくる。このころのアユはあまり匂いがしなくなる印象だ。それでも、冷凍したものを解凍するときには何故かちゃんと良い匂いがするから不思議である。

「江戸前アユだより」は、江戸前アユの現状や今後のあれこれについて現場を見ながら考えてみよう、という情報交換を目的にしています。